



## あの時 この曲 in 香港 五輪真弓「恋人よ」

クリスマスと新年の派手なイルミネーションの海。中国への返還について、北京でサッチャー英国首相と、趙紫陽中国首相との間で、合意書が調印された翌夕、私は香港に着任した。自分にとっては三回目の海外店で、気持ちの昂ぶりもなかったが、眼下の夜景の極彩色には驚いた。

明けて太陽暦の新年早々、新界 (New Territories) 大埔の得意先に向かう途中、沙田のヤオハンに立ち寄った。いやはや大きい。それまで静岡でみてきた店舗と桁違い。その日は、時間の都合で買い物はできなかった。ゴッタ返すレジカウンター周りを、声高に広東語が飛び交う。そこへ日本語の歌がガンガン繰り返されている。その歌こそ、五輪真弓の「恋人よ」だった。並ぶ商品は日式(日本式)を売り物にしているものが殆どだ。焼き鳥の煙がもうもうと立ち昇る。地元の子供達が、食べた串を床へバンバン捨てる。その脇に見なれない饅頭が並ぶ。私はこの活気に圧倒され、エライ処に来たなというのが、新界の第一印象だった。

五輪真弓作詞作曲のこの曲は、1983年、日本と香港でリリース。ところが先に香港でヒットして日本へ上陸したような形となった。なぜ香港になったのか。おそらくあまり離れてなくて、日本人が多い海外ということからでは？今ならさしずめ上海だろう。

「恋人よ」この曲ほど香港に不似合いな曲はない。  
# 枯葉散る夕暮れは、来る日の寒さをものがたり  
— たまに10℃以下となって、大騒ぎする香港のんびり枯葉なんてセンチなことは無縁。

# 恋人よ、そばにいて、こごえる私のそばにいて  
— 香港で、こごえる人はめったにいない。

おそらく、地元の人には日本語の意味など、どうでもよいのでは。日式のよいものは何でも取り入れる。



「實力派女歌手」として今もなお根強い人気の五輪真弓  
2000年に香港で発売されたアルバム「真弓傳」

それが恐ろしい活力に生まれ変わる。

当時の沙田店は、日曜日に十万人集客するといわれた。ヨーカ堂でも開店時ぐらいの由。勿論全部が買い物客ではなく、冷房を求めての夕涼みもあれば、二列縦隊の小学生の遠足もあるが、とにかく一社会を形成していた。大体三店とも辺鄙なところに出店していたから、地元住民にとって大歓迎だが、日本より駐在された方の御家族のご苦勞は、大変だったろう。その後ヤオハンさんは、不幸な結末にはなるが。

イデオロギーもヘチマもない香港人の活力。一方上記ヤオハンさんに限らず我々も、この地に中国貿易の橋頭堡を築くのだと、燃えていたあの時が懐かしい。

NPO法人日本香港協会会員 入江 央

### 目次

2011年4月 発行

|                          |     |
|--------------------------|-----|
| あの時 この曲 in 香港            | 1   |
| 香港政治いまむかし                | 2   |
| リディア・ダンさんのこと             | 3   |
| 「ビジネスの最前線から香港を語る」特別企画座談会 | 4~5 |
| 香港貿易発展局からのお知らせ           | 6   |
| 新年春節パーティ、香港ビジネスセミナー      |     |
| ギフトショー、香港環境産業視察ミッション来日   |     |
| 連合会・各地協会便り               |     |
| 連合会：第11回香港フォーラムと次回参加のお願い | 7   |
| 東京：年次総会と春節の集い、変な広告       | 8   |

|   |    |
|---|----|
| 関西：チャイニーズ・ニュー・イヤーズ・パーティ2011、春節セミナー          | 9  |
| 中京：恭賀新年 総会・親睦パーティ                           | 10 |
| 九州：新春講演会&パーティ                               | 10 |
| 北海道：「香港の集い2011」を開催                          | 11 |
| 山形：戴王温泉開湯1900年                              | 12 |
| 宮城：「2011春節セミナー&パーティ」女性部会による「第2回料理教室」を開催 その他 | 13 |
| 沖縄：沖縄を再びアジアのかけ橋に 沖縄国際航空物流一周年 in 香港          | 14 |
| 広島：香港再訪で思う過去と現在                             | 15 |
| キャセイパシフィック航空からのお知らせ                         | 16 |



金沢大学人間社会学域国際学類  
アジアコース准教授 倉田徹

物事には急激な変化と緩慢な変化があります。政治の世界においても、事件や革新がもたらす劇的な変化があれば、長年にわたる社会の変化を反映した緩やかな変容も存在します。前者は時に世界の耳目を集めますが、後者については大きく報道されるようなことも少なく、なかなか気づきにくいかも知れません。

香港の民主化は、恐らく世界的に見ても極めて稀なほどの緩慢な変化の過程です。その本格的なスタートは、1982年の区議会への普通選挙の部分導入であるとされ、以来現在に到るまで、間接選挙の導入・普通選挙の漸次拡大・委任の廃止など、選挙を経るたびに、各種の議会にはわずかずつ民主的要素が拡大されてきました。しかし、開始から30年近くを経た現在においても、行政長官は特権層の代表者である800人の選挙委員による間接選挙ですし、立法会の半数は制限選挙で選ばれており、民主化は完成を見ていません。2007年末、中央政府は2017年に行政長官の普通選挙、2020年に立法会の全面普通選挙を実現し、民主化を完成させるとのタイムテーブルを提案しましたが、この通りに今後の民主化が進展するとしても、その完成は9年後であり、その間38年を要しています。民主派の元老・司徒華は、民主化の完成を待たずに今年1月死去しました。生きているうちに普通選挙を見たいと述べているアンソニー・チャン元政務長官は、2020年には80歳になります。

このような緩慢な民主化のペースは、「足場の石を探りながら河を渡る」と称される、中国の改革・開放のペースに似ています。急速な経済成長の反面、中国の政治改革は緩慢です。鄧小平は1992年、天安門事件後の停滞する中国経済に梃子入れするため、有名な「南巡講話」を行い、「纏足女のようにだめだ」との名言で経済の改革・開放を後押ししましたが、民主化に関してははっきりと足を縛って、よちよち歩きを今も続けさせています。香港基本法は民主化を「順序を追って漸進させる」ことを明記しており、急変を強く戒めています。かつてある香港政府高官は、香港という小型ボートが中国という巨艦と艦隊を組むためには、ボートは巨艦のペースに合わさねばならないと、筆者に民主化の速度制限の必要を説きました。

このため、民主化の成果を30年にわたって蓄積してきたとはいえ、香港の政治体制の本質は、民主化以前から根本的には変わっていません。ロンドンが選ぶ総督は北京が選ぶ行政長官になり、相変わらず「行政主導」と称される、大きな権限を握っています。最終的な普通選挙の実施時さえ、北京が行政長官の人選に大きな影響力を持つ仕組みが残されることが予想されています。最近のチュニジアやエジプトの事態のような、大衆の民主化要求の爆発も少なく、

香港の民主化は世界的に見ても実に「地味」なものです。

しかし、このような一見地味な展開にも関わらず、民主化の蓄積は長い時間をかけて香港市民の意識を少しずつ変化させ、政治のあり方に大きな変容をもたらしました。制度上は不十分な民主化であっても、香港政治はその影響を強く受けているのです。

第一に、行政はかつてのように傲慢ではいられなくなってきました。植民地期、香港ではあらゆる社会福祉は、政府から市民に与えられる恩恵と位置づけられました。政府が何らかの福祉政策を提案した場合、これをさらに拡大するよう議員が修正を求めることがあれば、政府は原案の撤回を示唆して議員に修正を断念させるという態度をしばしばとりました。これは議員立法が禁じられていたため、議員は政府の案を呑むよりほかに方法がなかったのです。このような態度は「行政覇道」と称されました。現在でも議員立法の制限は厳しいですが、民主化された立法会は「民意代表」という権威を与えられ、政府を厳しく監視しており、むしろ政府が立法会に可決を乞うのが通例となりました。原案撤回をほめかして政府が立法会を脅迫するような事態は、返還直後まで稀に発生しましたが、今ではまず見られなくなりました。

第二に、立法会議員も、民意を意識するようになりました。かつて総督の委任で選ばれていた議員は、現在は全員選挙（制限選挙を含む）で選出されます。立法会への出席率や発言などもメディア等に監視され、かつて「金持ちの余技」であった議員職は、「プロの政治家」の色彩を深めてきました。その変化の波をまともに受けているのが自由党です。財界から委任で選出された議員のグループを出自に持つ同党は、長く財界利益の代弁者でしたが、将来の普通選挙化を見越し、最低賃金導入に賛成に転じるなど、市民の側に立つ政党へと脱皮を図っています。しかし、路線転換は順調ではなく、党勢は急速に衰退しています。

第三に、市民の納税者意識が非常に高まりました。メディアは政府の様々な政策を、いつも「公費の無駄遣い」と批判します。それが端的に表れたのが2023年アジア大会の誘致活動です。政府は広州アジア大会で活躍した選手まで動員し、世論に誘致活動支持を訴えましたが、誘致と開催の費用が多額に上ることが報じられ、ついに市民の多数派の賛意を得ることはできず、これを受けて立法会の大政党も誘致反対で一致し、最終的に政府の提案を否決しました。

こうして見ると、ドラマチックな展開の少ない香港政治にも、あたかも久しぶりに会った子どもの成長に驚かされるように、振り返ると蓄積された変化がかなり大きなものになっているのです。今年から来年にかけては重要な選挙が次々と実施される予定で、民意のパワーが示されることとなりそうです。



## リディア・ダン さんのこと

日本香港協会全国連合会 会長 賤前 宏

旧聞に属するが、昨年猛暑の7月末に香港紙を読んでいたら“Lydia Dunn gives up seat of House of Lords”という見出しが飛び込んできた。

1980年代から90年代前半まで香港経済界を代表したリディア・ダンさんのことを覚えている人は多いと思う。私も丁度80年代終わりに日本人商工会議所の会頭をやっており、ダンさんはTDCの会長で(Executive DirectorはJack So氏であった)年中会合で会っていた。

英中協定ができ、基本法もほぼ完成に近い段階であった。香港の財界でもTDCなどを中心に97年以降の予測について活発な議論がなされていた。改革開放政策が始まり珠江デルタに安い労賃を求めた繊維工場が続々と各国から進出してきていた。深圳市はまだゴルフ場と中国各地の名所のミニアチュアの公園があったくらいで、市は工場誘致に熱心ではあったが、香港勢をはじめ海外企業は深圳よりむしろ奥地に工場用地を求めていた。(深圳には日本勢では三洋電機が進出したくらいであった)。ダンさんをはじめ香港の関係者は中国の将来についていろいろ討議しても最後には巨大な人口をどうするかという人口問題に突きあたってしまうと嘆いていたが、状況は20年後の今でも変わりはない。

セントラルからガーデンロードを上り植物園下の豪華な高層マンションの最上階に住居があり、私も何回か食事に招かれたことがある。一見して分かる高価な中国骨董があちこちに並べてあった。面白かったのは、ダンさんは鄧小平の鄧と苗字は同じだが先祖はあんな人とは全く関係がないと言っていた。確かにスーパーレディと古狸くらいの差はある。

スワイヤーとかHSBCとか香港電力などいろいろな大企業の役員をやっており、パーティなどで週に一回は挨拶していたことになる。いかにも頭よさそうなレディで、素晴らしい英語を話し、そのスピーチは聞く人を魅了させていた。ただし美人の判断は人により異なるが、失礼ながら美人型ではなくかわいいメスライオンを彷彿させるような顔であった。

香港財界や貿易発展局を代表してロンドン、ニューヨーク、東京などを年中駆け回り、香港のUnofficial Trade Ambassadorといわれるほどの大活躍によって1990年に英国女王から爵位を授与され、Baroness Dunn(男爵、一般にはLord)と

なった。爵位には土地の名前もつくが(所有はできないが)彼女の場合はKnightsbridge and Hong Kong Islandsとなっている。余談だが、Knightsbridgeは有名なHarrodsデパートのある高級住宅街で、裏側には京都並みに先斗町(Pont Street)まである。

今はロンドンで夫君のMichael Thomas氏(香港政庁法務長官などを歴任)とともに引退生活をしているイメージであったが、実際にはSwireのExecutive Directorとかその他の役員とかまだまだ活躍中だ。さて話は冒頭のHouse of Lords(上院)の議席を失うというのは、昨年、英国で「英国に住んでいる場合、英国以外の土地で得たすべての収入に対しては、英国で税金を払うべし」という法律ができたためである。ダンさんの場合、香港での収入も大きく、最終的には香港をベースとしたいのか、香港、ロンドン両都市をベースとしたいのか。議席を失っても、愛するこの両都市と別れたくないというのが実態かと思う。

余計な話だが、クリスティーのオークションに彼女は160品目の個人のコレクションを出品したら各品に4百万円以上の評価がついたとも言われている。

さて香港かロンドンかで騒いでいるもう一つの目玉はHSBCだ。

この騒ぎは会長のStephen Greenが会長職を辞任、英国政府の貿易担当大臣に就任すると報じられ、一連の幹部人事が発表されてからだ。Green氏はすでに爵位を持っているので当然House of Lordsの一員となるであろう。一方、会長職は通常なら現CEOのMichael Geoghegan(在香港)がなるところだが退任することとなり現HSBC HoldingのCFO、Douglas Flintがロンドンで会長となることとなった。一方CEOは現在の投資銀行トップのStuart Gulliverがきまった。会長職は日々の業務から離れ全体を見ることとなったらしい(以前からNon-Executive Chairmanという発想は各社にあったが、HSBCでは歴史上初めて)。この人事を見て、香港では、1865年に香港で創業、1993年にロンドンに本社移転のHSBCが再び香港に移るのではと期待を込めた噂が広まった。確かに法人税とか移転のメリットはあるが、Hong Kong Monetary Authority(香港金融管理局)ではこの世界最大で最も複雑な仕組みの銀行を監督するには、資金も含めて力不足ということで一件落着となったようだ。



ゲスト：佐々木由紀雄（香港経済貿易代表部 投資推進室長）  
 （敬称略） 武藤 鍊太郎（香港フレッド・カン法律事務所 弁護士）  
 加藤 修（みずほ銀行 国際営業部・国際アドバイザーチーム次長）  
 司会：平野 純一（毎日新聞社エコノミスト編集部次長・日本香港協会広報委員）

**平野** 本日は、返還の前から現在まで長きに亘りビジネスで香港と関わって来られたお三方にお集まりいただき、香港の今と昔、更には未来についてお話を伺いたと思います。

**佐々木** 私は妻が香港人で、最初に香港に行ったのは1987年です。食品会社のアモイフーズに入り、日本のタイヘイフーズとの合弁会社で仕事をしました。ただ、事業はあまりうまくいかず、1年で終わってしまいました。88年からは弁護士事務所のカオリイップに転じ、日系企業の投資相談を行いました。返還直前の96年頃には、やはり返還されて主権が中国に移るとどうなるのかなという不安はありました。香港を出ていく人はずいぶんいましたね。とはいえ、返還前の香港はかなりの不動産バブルで、日本からの投資もほとんどが不動産投資でした。私たちの接待もゴルフやカラオケとかなり派手でしたし、給料もどんどん上がっていきました。しかし、97年のアジア金融危機で不動産は急落してしまったのです…。

**武藤** 私は93年に香港に行きました。現在勤めている法律事務所働きながら、夜は学校に通って弁護士資格を取るための勉強に励む毎日でした。97年当時はまだ勉強中だったので、香港人が外に逃げ出すといっても、私自身としては、あまり関係ないという感じでした。さらに、中国に返還されても一応法律は変わらないという保証があったし、香港の基本法を見てもトップがイギリスから中国に変わっただけで、「高度の自治」を認めるということでしたから、大丈夫だろうとは思っていました。ただ、当時シンガポールやオーストラリアに出ていく弁護士は何人かいましたね。

**加藤** 私は返還の時は大陸側にいました。まず91年に上海に行き、その後94年に大連に支店を開くために赴任しました。銀行をゼロから立ち上げるというので苦労しましたが、香港にはディーリングルーム等で研修を受ける際に再三訪れる機会がありました。当時日本の銀行はなかなか中国企業にファイナンスができなかったため、私は大連で華北・東北に進出した欧米系企業向けに営業を展開しました。次第に食い込めるようになると、欧米系企業は地域本部が香港にあったりして、最終的な承認をもらうために香港に来てこれら地域本部を訪問したりしていました。香港の中国返還の頃は、欧米企業はカントリーリスクをかなりシビアに考えていて、香港から一度シンガポールなどに資金を引き上げて様子を見るなど敏感に反応していたと思います。一方、日本企業は対照的に反応が鈍かった。東京があるから、いざとなればそちらに移せばいいと考えていたからかもしれません。

**平野** 香港には何時頃移られたのですか？

**加藤** 2001年です。当時は香港に所在する中国企業等へシンジケートローンを組んだり、中国の航空会社と航空機リースで関係を持つなど中国企業の香港の出先との仕事が増える傾向にありました。中国企業が香港で外貨資金を調達するケースは多数見られました。その後は、香港で中国の情報を必要としている日本人ビジネスマン向け

に調査レポートを毎月発行する業務を経て、中国やアジアへ進出する企業への支援業務を行なうようになり現在に至っています。当初は香港と華南で始めましたが、非常にうまくいったので、対象地域が中国全体から最後にはアセアン・インドまで広がっていきました。

**佐々木** 香港へ行った当時と今で変わったことは、政府の対応がずいぶんと良くなったということでしょうか。最初は空港税関の対応もひどかったし、警察の汚職もあったと聞きました。反日感情の話も聞かれましたが、今ではほとんどなくなりました。

**武藤** 私は仕事ではずっと日本企業を担当していますが、依頼の内容の変化でいうと、最近ではかつての独資企業の設立も中国本土の仕事になっていますし、また最近多いのは、香港企業とジョイントベンチャーを組みたいがどうしたらいいかという相談です。また、日本を抜け出して香港に拠点を移したいという相談も多くなっています。製造業、外食産業、貿易業など業種も様々です。そういった企業にとって、日本にとどまるのも厳しいようで、かといって実際は香港に来てもすべてバラ色とは限らない。厳しい時代です。

**佐々木** 日本は何をするにも規制で縛られていますよね。香港は、自分がリスクをとる気にさえなれば、ある程度行動の幅が許容されています。香港はアジアの「アメリカンドリーム」が実現できる都市、自分次第で一発当てることができる。香港には相続税もないし、ビジネスで儲ける人が神様という考え方があります。

**加藤** 日本の法人税の実効税率は約41%、香港は16.5%です。25%の差がある。手元に残るおカネが25%も違えば、10年経てばものすごい差になります。香港には配当課税、利子課税もありません。儲ければほとんど自分に残りますが、日本はアツという間に目減りしてしまいます。最近では企業にとってのマーケットの中心も、日本からアジアに移っていく傾向にあります。日本の本社より香港や中国の現地法人の売上のほうが大きな会社が次々に出現しています。逆転が進みますと、どこに本社を置くべきか、という議論が起こってきます。日本に置いたままだと、アジア市場から遠く遠隔操作になってしまう。

**武藤** 弁護士活動をしていてもそのことは感じます。株式を上場する場合も、東京ではなく香港でという企業も出てきています。ただ、最近では海外で資金調達するなら、台湾かシンガポールでという話を聞きます。香港にはすでに老舗の企業が数多く上場していて、少し入りにくいという印象があるようです。その点、台湾やシンガポールの方が敷居が低いのかも知れません。

**加藤** 証券会社の人によると、同じ価値の株を上場させる場合、東京を100とすると、香港は200、深 だと700、つまり調達できる資金が7倍違ってしまふことになりまふ。そうなる、もはや東京で上場するメリットはない。更言え、企業が資金調達をする場合、本来欲しい通貨は現地通貨であるわけで、為替リスクも考えれば現地で上場しようとするのは自然です。本来は中国がいいのかも

## 「ビジネスの最前線から香港を語る！」



加藤 修 さん



佐々木 由紀雄 さん



武藤 隼太郎 さん



平野 純一 さん(司会)

しませんが、中国はまだ規制が厳しいので、香港、シンガポール、あるいはネット系企業だと台湾や韓国などが選択肢になります。特にシンガポールは、香港に比べると政府が優遇税制などをきちんと考えて戦略的に設定しています。逆に香港はイギリス人が抜けた後、頭脳が欠けて緩んでしまっているような印象を受けます。

**佐々木** 元首相のリー・クアンユーがこれまでの苦難を経て得たものとの差でしょうね。長年、自国で統治してきたか、そうでないかの差です。私の仕事は日本企業を誘致することですが、優遇策などでシンガポールと比べられることは多いです。

**加藤** シンガポールの法人税は現在17%で香港より0.5%高い。しかし、リージョナル・ヘッドクォーターを置くとあるケースでは12%、インターナショナル・ヘッドクォーターを置くと別のケースで5%にするというように、優遇税制がしっかりしています。また、学校など教育機関の誘致もすごいですね。日本では早稲田大学がシンガポールに系列高校を開設していますが、教育分野にも熱心に取り組んでいます。これは香港ではあまり見られない。香港は地の利があって、中国とアジアの架け橋になれる一方で、どちらかという中国のことがばかりを見ていて、その他の国々との関係強化には力を入れていないように見受けられます。

**武藤** それは、最終的には中国本土に戻るという前提がありますからね。それがあから逆で難しい。

**佐々木** シンガポールの真似はなかなか難しいでしょうね。でも、どうでしょうか。いつか中国にとって香港が“カネヅル”ではなくなる日が来ますかね。

**加藤** それが怖いんですよね。でも香港はおカネがあるところについていくのではないですか。

**佐々木** その意味では香港は節操がないと言えるかもしれません。頼るべきは人力車に乗るだけの家財道具と親戚くらいしかいないわけですから。よく言いますが、やはり香港は「借りている土地と借りている時間」なんです。その中で稼げるだけ稼げばそれでいい、ということでしょうか。

**武藤** 最近の香港は中国にすり寄る傾向がより高まっているかもしれませんね。香港の一国二制度はあくまで「高度の自治」であって「完全な自治」ではなく、最終的には中国本土政府の言うことを聞かなければなりません。中国も香港も香港の繁栄を持続させようという意味においては利害が一致しているの、その一点において、両者はうまくやっていると思います。ただ、本土の方も急速に発展して豊かになっていますからね。

**加藤** 中国の国務院から、今年スタートする第12次5カ年計画が出ましたが、すごいと思うのは、「人の質を上げる」

という項目があったことです。本土政府は、自国の民の質的レベルが国際標準から比べると劣っているというのはちゃんと分かっているのです。中国はこれまでの5カ年計画で、西部大開発や東西経済格差の是正を掲げて、それを実行してきました。やはり中国恐るべしです。

**佐々木** かつて日本のバブル崩壊後、日本には就職先がないので、香港に職を求めて日本人の女性がたくさんやって来たことがありました。現在日本人の起業家たちが香港やアジアで「和僑」といってネットワークを形成していますが、まだまだ一部だけという感じですね。中国人とはスケールが違います。

**武藤** 香港での日本人弁護士もわずかながらも増えてきましたが、それでも4~5人です。

**加藤** 香港はなんといっても元気ですよ。日本は電車に乗ってもみなうなだれていますが、香港はうるさいくらい賑やかです。

**平野** これからの香港は、ビジネスを考えるうえでどう変わっていきばいいのでしょうか。

**加藤** 中国本土の発展で、香港でなければできないことがだんだん少なくなり、相対的に香港の地位が低下してしまうのは仕方ないと思います。香港の特権が失われていく中では、香港は役割を変えていかなければならない。中国の所得水準が上がり、加工輸出型企業の中国進出では「チャイナ・プラス・ワン」としてアセアン等へ生産拠点を分散する傾向が現れています。中国一極集中だとリスクがあるので、ベトナムやカンボジアなども視野に入れた動きが活発です。そのときに香港は中国と東南アジアの双方をコントロールする拠点になり得ます。そのように香港を活用しましょうと私は言っています。

**武藤** 香港をアジア全体の拠点にしたいという企業は依然として増えていると思います。地の利はあるし中国本土市場にも入りやすい。ただ、香港の役割で言うと、逆にこれからは中国で大儲けした人たちが——それは中国人であるかどうかに限らず——外に出ていこうとするときに、香港を活用するという機能も果たすと考えています。香港は国際的なネットワークが充実しているので、それを活用して外に出ていくということです。

**平野** 香港は、イギリスの植民地になって中国とは別の道を歩み、大きく発展してきたわけですが、97年以降中国本土に組み込まれてからは、中国の成長ドライバーとして本土の民度向上に貢献してきました。今後は、アジア全体のセンターとして、中国本土を含めた地域の共存共栄の鍵を握るのが香港であると言えそうです。香港の発展を願うとともに、同じアジアのわが国の奮起にも期待したいところですね。

## 香港貿易發展局からのお知らせ

### 旧暦新年春節パーティを開催いたしました

2011年2月9日(水)、マンダリンオリエンタル東京におきまして香港貿易發展局主催「旧暦新年春節パーティ」を開催いたしました。当日は香港より香港貿易發展局総裁フレッド・ラムも駆けつけ、鹿野道彦農林水産大臣、直嶋正行元経済産業大臣、芦田昭充日本・香港経済委員会委員長、碓井稔セイコーエプソン社長、ジェニー・チョック香港経済貿易代表部日本首席代表、加納國雄香港政府観光局日本・韓国地区局長に、日本香港協会からは財前宏全国連合会会長をはじめ各協会の代表者等、250名を超えるご招待客にご出席をいただきました。香港は日本からの農水産物の仕向地が4年連続でNo.1となり、また中国へのプラットフォームとしても、役割がますます重要になってきており、香港貿易發展局もビジネスパートナーとしての香港をより一層PRして参ります。



香港貿易發展局総裁フレッド・ラムによる歓迎挨拶

### 札幌での香港ビジネスセミナーで古田茂美日本首席代表が講演いたしました

2011年2月7日(月)、雪祭りの開会で賑わう札幌グランドホテルに於いて、香港経済貿易代表部主催の香港ビジネスセミナーに後援として参加いたしました。セミナーでは、古田茂美香港貿易發展局日本首席代表も講演を行ない、香港に関心を持つ自治体・企業から150名以上が聴講される中、ビジネスパートナーとしての香港を改めて強調いたしました。



香港の最新状況を聴講する出席者

### 香港企業が来日しました

(東京インターナショナル・ギフトショー、環境産業ミッション)

香港貿易發展局では、毎年春・秋2回の東京ギフトショーに香港パビリオンを設営し、香港企業の対外進出をサポートしております。2011年2月1日(火)から4日(金)の期間に東京ビッグサイトで開催された「第71回東京インターナショナル・ギフトショー・春」の会場内に、香港パビリオンを設営し香港から15社が出展をいたしました。毎年4月末に香港で開催される「香港ギフト&プレミアム・フェア」は世界最大規模を誇っており、ギフト産業は香港において伝統的に注力してきた産業です。今回の東京ギフトショーでも、香港企業による様々なアイテムが出展され、来場者の注目を集めていました。



香港企業のアメイジング・プロダクト・デベロップメント社のブース

また、2月15日(火)から18日(金)までは、香港から環境産業視察ミッション(団長:ダニエル・チェン香港環境保護工業協会会長)が来日、30名の団員が川崎市内の企業および川崎国際環境技術展の視察や、ビジネス・マッチングに参加いたしました。香港特別行政区政府は本年度の施政方針でも環境保護を掲げており、香港貿易發展局も2008年に川崎市と覚書を締結し、日本の持つ優れた環境技術の香港への円滑な移転に注力して参りました。川崎国際環境技術展で開催された「アジア知的財産フォーラム」で、チェン会長から香港と川崎市の連携についての報告があり、今後の日本からの技術移転における一つの形が提示されました。



阿部孝夫川崎市長(中)とダニエル・チェン香港環境保護工業協会会長(右)

## 第11回香港フォーラム・サイドトリップと 次回参加のお誘い

NPO法人日本香港協会会員 小溝文雄

昨年に続き日本代表(?)として参加しました。今回のサイドトリップはフォーラム開催前に挙行され、22カ国の参加者とスタッフを含め45名が香港空港に集合、飛行機を利用して3泊4日の日程で中国本土に向け出発しました。

今回は企業訪問の話はお休み、桂林・杭州観光のお話です。

①「Li River Cruise桂林・漓江下り」当日は小雨まじりでしたが、それが山水画だけでなく水墨画のような雰囲気をかもし出していました。船は霧がかかり山々の間をなんともいえない神秘的な光景の中を約3時間でゆったりと下って行きました。ツアーに昼食が付いています。感心したのは食材調達です。

エンジン付の小船が魚介食材を売りに来て、必要量を仕入れ船尾のキッチンで料理され、昼食にです、合理的ですね。



幻想世界と現実を味わいました。

②「Impressions - Liu Sanjie陽朔西湖、印象-劉三姐」ナイトショーで西湖の自然山水を湖と山を背景に、杭州に関する伝統や物語をキャスト500名(?)の壮大なスケールを、中国映画の巨匠・張芸謀監督と音楽は日本の喜多郎がプロデュースし、音と光の舞台芸術でショーが繰り広げられました。イメージは《日本のディズニーマジック・イン・ザ・スカイのテーマパークで、夜を音楽と光で幻想的に彩る、ナイトタイムショー》です。違うところは音響・照明以外は機械仕掛を極力使わない、出演者の歌と演劇で、歌う・歩く・走る、小船を漕ぐ、人力・体力によるショーです。さすが日本の10倍の人口を誇る国の企画、「百聞は一見に如かず」一度現地で御覧下さい。



③「Yangshou West Street」桂林の原宿と言われているショッピングストリート、若い世代には人気の場所で芋を洗う状態の人気だそうです。当日は雨と夜のためか人出はそれ程ではなく、手

作りキーホルダー店でお土産用に3個つくってもらいました。

④「Shangri-La 世外桃源」桂林周辺に古くから住む、少数民族の独特の建物や暮らしが再現されたテーマパーク。まず小船で自然湖を一周し、民族衣

装を纏った原住民の生活や文化、建物の中は民族工芸の作業風景を見たり、工芸品を買うことができます。



入村歓迎



ニューヨーク摩天楼のような鐘乳洞の風景

⑤「Reed Flute Cave 蘆笛景區」大自然芸術之宮の鐘乳洞、内部はLED照明で観光ルートが設定され、見学者が多いので道に迷うようなことはありません。洞窟探検的なイメージでなく照明が見事で人工的に作った見世物と錯覚するような状態でした。日本の鐘乳洞見学は探検的な雰囲気があり照明は最低限で薄く暗くすこし怖い印象がありますが、自然保護の問題はないのかと少し心配してしまいました。



参加者集合写真 (廣西綠域水務股份有限公司)

◎ 最後に参加のお誘い「日本からフォーラムには毎年参加者100名以上なのに、サイドトリップにはなぜあなたしか来ないの?」と質問された。フォーラム参加者の方々は本土に何度も行かれていますので興味がないかもしれませんね。情報はインターネットで容易に入手できます。しかし忘れていませんか、「関係GUANXI」人脈は大きな力となることをご存知ですよ。毎年20数か国からの多数の参加者との出会いを通じて本物の人脈構築ができるチャンスです。次世代をになう若い部下を参加させませんか。

第12回香港フォーラムは  
11月29日(火)ー11月30日(水)開催される予定です。  
サイドトリップは  
12月1日(木)ー12月3日(土)珠江デルタ視察予定です。参加をお待ちしています。

<香港フォーラムのお問合わせ先>

日本香港協会全国連合会

TEL: 03-5210-5901

E-mail: national@jhks.gr.jp

第10回年次総会と2011春節のつどい

NPO法人 日本香港協会

数日ぶりに春らしさを感じる穏やかな2月23日午後、表参道にあるアイヴィーホールを会場として開催されました。

(1)年次総会

下記の諸議案がいずれも異議なく多数の賛同を得て可決されました。

- 第1号議案 平成22年度事業報告
- 第2号議案 平成22年度決算報告
- 第3号議案 平成23年度事業計画
- 第4号議案 平成23年度予算計画
- 第5号議案 役員人事

(2)2011春節のつどい

まず、第1部:文化講演会は、新進気鋭の香港政治学者であられる金沢大学准教授の倉田徹先生をお招きして、「香港の民主化・回顧と展望」と題するご講演を頂きました。日頃私たちが見逃している、香港の政治を巡る中央政府

との駆け引きや政党内部の軋轢など含蓄に富んだ解説に加え、豊富な資料の提供も相まって十分納得できる内容でした。結論として;

- ①香港の民主化は、管理された上からの民主化
- ②英国は香港に西欧式のdemocracyを移植しようとしたが、中国はこれを「中国の特色ある民主(minzhu)にすり替えようとしている
- ③「中国の特色ある民主」は、香港市民を満足させられないかも知れないが、中国全土にとっての参考となる可能性があるかと締めくくられました。更に予定外の質疑応答でも、異なった視点からの貴重なご見解を拝聴する栄を得ました。

引き続きの第2部:懇親会では、倉田先生を始めこの日初めて顔を合わせる機会となった諸兄姉の間で名刺交換や談話が行われ、有意義なひと時を過ごしお開きとなりました。

ウォーキング愛好家の会便り

会員 菅野暁子



今回は下町の神社、仏閣を巡る約30,000歩のウォーキングでした。11月23日勤労感謝の日、JR御茶ノ水駅聖橋口集合。ちょっと寒さを感じる小雨の中での出発でした。

まず、神田川を渡ってすぐ湯島聖堂の堂々たる構え、学問の木として有名な楷(かい)の紅葉に感動。要所要所を散策し2時間ほどで浅草の矢先稲荷神社に着きました。思わぬことに祭礼を行っていて大変賑わっていました。

私は100円のお賽銭で、芋の煮込み、ビール、お茶など、思いもよらぬ賑わいを受けました。ちょっと気恥ずかしかったのですが、疲れも出てそろそろ昼食という時間だったので、私同様みんなの顔も元気を取り戻したよう

でした。更に歩くこと30分、隅田川の紅葉した桜の木の下で昼食。目の前にはスカイツリーが眺められ、なんとも贅沢なことでした。スカイツリーの建設現場近くまで立ち寄ったのち、門前仲町駅で散会しました。

(編集部後記)

この会は、かつて存在した4分科会の唯一生き残りです。当初は、「ハイキングクラブ」と称しており、その名通り比較的高低差のある山野の歩きが主たる狙いでした。その後、参加者の高齢化もあり、誰でも参加でき事故の可能性も少ないタウン・ウォーキング中心に趣旨変えし、同時に現在の名称に変更された経緯があります。更に、日本シンガポール協会との合同懇親会の席上で、それまで同協会会員は個人ベースでの参加でしたが、数年前から両者の共同主催事業とすることの同意を得て一層盛んになっています。ご関心ある向きのご参加をお待ちしています。

変な広告

湾仔

日比谷公園のはす向かいにペニンシュラホテルが開業し、マンダリン、シャングリラと香港を代表する豪華ホテルが東京に勢ぞろいした。

先日Cathay Pacificの香港・羽田線就航記念としてペニンシュラ東京でパーティがあった。昔の国際線はすべて羽田からであったので、その羽田に国際線が戻るといふ年寄りにはノスタルジックな会でもあった。さらにパーティ会場が素晴らしいものであった。ホテルの24階で正確にはThe Seven Seas Pacific Aviation Loungeという東京湾に向かって夜景を見渡せるガラスばりの部屋だ。

ワインを片手に夜景を眺めているうちに、まるでチムシャーツイから香港島に向かって立っているような気分

になった。香港に住んでいた人はご記憶にあると思うが、フェリーでチムシャーツイからセントラルに向かうと赤い大きなネオンで「ぢ」という広告が嫌でも目に入る。菓の広告なのか、何なのか分からないし、それにしても日本人にしか分からないだろうと皆さんも首をかしげたのではないと思う。さて、このパーティ会場から外を見るとまさしく大ネオンで赤い「ぢ」の広告が出てくる。ペニンシュラホテルの中でもあり、まさに香港だ。

会場の名前から想像すると航空関係者のクラブらしいが、皆さんも是非行かれるとよい。ただし変な広告の話はしないほうがよい。窓を閉めるといわれても困る。

それにしても夜景に「ぢ」まで入れるとはホテルを設計した人もずいぶん凝った人だ。



## チャイニーズ・ニュー・イヤーズ・パーティー2011

関西日本香港協会事務局



皆で元気に乾杯!

関西日本香港協会では、恒例のチャイニーズ・ニュー・イヤーズ・パーティーを2月23日にヒルトン大阪で122名の参加者を得て盛大に開催しました。昨年よりパーティー参加者が増えてきており、パーティーの間中参加者同士の交流も活発で協会の大イベントとしての懇親行事の目的を立派に果たせたと喜んでおります。

パーティーは木全千裕会長の挨拶で始まり、今年は増えてきている法人会員の香港ビジネスのお役に立てるような活動も目指したいとの抱負を述べられました。続いて、経済産業省近畿経済産業局の通商部長横澤力氏が歓迎挨拶の中で関西と香港との貿易動向を説明され、仕事ではなく個人的に香港を訪問してみたいと述べられました。また、東京から参加していただいた香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏は歓迎挨拶の中で、香港が日本の農水産物の輸出相手国で世界一になったことや昨年12月の香港フォーラムで日本からの参加者96名がカナダを

抜いてNo.1になりBest Attendance Awardを受賞したことを紹介され、日本の香港協会が香港の発展と共に大変盛り上がっていることが大変喜ばしいと挨拶されました。中国に帰国されることになった中華人民共和国駐大阪総領事館の参事官領事劉雲清氏が挨拶され、主催者と来賓の方達6名が壇上に上り声高らかに乾杯の音頭を取られて会食に入り、ヒルトン大阪の中華料理「王朝」特製の旧正月特別料理を楽しみました。

今年のアトラクションは楊琴演奏家・歌手として永年日本で活躍しておられる周琪(シュウキ)さんに歌を歌ってもらい、沖縄の名曲「花」、「You raise me up」とオールド上海の名曲「何日君再来」の3曲を楽しみました。

今年のラッキードローは沢山の協会理事企業や会員企業から景品が提供され、また、香港から特別参加された香港で著名なボンドグループ会長のアンソン・チャン氏もジョニーウォーカーの最高級ウイスキーを提供されました。特別賞のキャセイパシフィック航空提供の香港往復ペアチケットとヒルトン提供の香港コンラッドホテル宿泊券の抽選の際には場内が高に盛り上がりました。最後に当協会の副会長田中義次氏の閉会の挨拶で楽しかったパーティーを終りました。



歌う周琪さん

## 春節セミナー開催

新春に当り、香港貿易発展局との共催で2月23日にヒルトン大阪で「中国本土と連携して発展する香港と今後の日中関係について」をテーマにした春節セミナーを開催しました。大阪商工会議所、近畿経済産業局、ジェトロ大阪本部や香港・日本経済委員会などに後援・協賛していただいたこともあり、会場いっぱいの240名の参加者を得て盛会でした。

講師の香港貿易発展局日本首席代表古田茂美氏に「中国と香港、そして日本の未来展望について」と題した講演をしていただきましたが、更なる経済発展を目指す中国の戦略的な動き、中国・東南アジアで急拡大している華人経済圏の最新動向とその中心地として重要性を増している香港などについて詳しく説明され、香港と中国の関係変化と中国の未来展望や転機を迎える日本企業の対中進出に関し、大変刺激的で有益な示唆に富んだ話をいただきました。

また、HSBC投信株式会社の代表取締役社長松田宇充氏には「香港からみる国際金融の潮流と日本」と題した講演をお願いしました。松田社長には豊富なデータ・資料を提供していただき、香港の金融機能や国際金融

センターとして発展している香港と中国人民元の国際化が進んでいる実態と将来を展望した課題などについて詳しく解説して頂きました。飛躍的に拡大する中国と香港の証券市場と人民元の国際化が進展しているアジアの潮流を背景にして、日本の金融市場の国際化の遅れや今後の対応の必要性を痛感させられた有意義なセミナーでした。



講演するHSBC投信の松田社長

## CHUKYO

中京日本香港協会

### 恭賀新年 総会・親睦パーティー

中京日本香港協会 副会長・事務局長 佐藤 亮一



2011年旧正月パーティーは、2月24日ヒルトンホテルを会場にして、盛大に開催されました。本年はセミナー、パーティー共多様なゲストの招聘、セミナーは話題性のあるタイムリーな情報、参加者全員に提供された文献共々興味深く拝聴したとの意見が、後のパーティー会場でも聴取された。

まず総会では、今年より高橋治朗(現名商會頭)氏から豊島徳三(新任会長)氏に引き継がれて新しい船出をした件、また、従前の規約を見直し、理事役割分担組織図の簡素化、法人獲得増強の件が確認されました。セミナー会場では、来賓である中部経済産業局地域経済部次長足立清氏の「中部経済の現状と今後」の挨拶に続き、香港貿易発展局日本首席代表古田茂美氏の「益々飛躍する香港、その秘密と未来展望」(講演Ⅰ)、重光産業(株)取締役広報室長



重光悦枝氏の「味千ラーメンの香港、中国における戦略と労務管理」(講演Ⅱ)と大変興味のある講演2題により満員盛況で終了する事ができました。手配された香港貿易発展局の皆様には中京地区関係者として感謝する次第です。

続く新年パーティーでは、来賓に駐名古屋総領事館総領事張立国氏、名古屋商工会議所高橋会頭の祝辞、古田首席代表はじめ他来賓の音頭による乾杯を機に、恒例のライオンダンスに始まり各参加者との名刺交換、親睦交流が賑やかに催されました。

アトラクションの「二胡」演奏も場に花を添え、合わせて全員に当たる大抽選会が締めとなり大成功のうちに終了出来ました。香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部、香港政府観光局、香港貿易発展局、日本香港協会全国連合会他各関係機関各理事に大いに感謝いたします。

## KYUSHU

九州日本香港協会

### 新春講演会&パーティー

九州日本香港協会 事務局

当協会は昨年7月に発足し、ビジネスと文化の両面から九州と香港との交流を推進することを目的に運営しています。2月14日(月)17時よりホテル日航福岡に於いて春節を祝い講演会とパーティーを開催しました。講演に先立ち、来賓として九州経済産業局木佐貫国際部長にご挨拶をいただきました。続いて、今年が辛亥革命100周年の節目の年にあたり、偉大な革命家・孫文を支援したのは多くの九州人達だったことから、イントロダクションとして香港貿易発展局の古田茂美日本首席代表が孫文や梅屋庄吉に関する香港・中国での最近の事業を映像を使って紹介されました。今、こうした九州人の偉業が改めてクローズアップされ、角川映画にて日中合作の映画化が進行しています。そして、3月の九州新幹線の開通により、香港や中国をはじめアジアの国々から多くの観光客の来日も予想され、今後ますます九州と香港のつながりが深まることが期待されているところです。

講演会では日本と香港・中国の関係を再認識し、新たなビジネスの進展に鑑み、演題を『梅屋庄吉と孫文が活躍した時代』とし、角川グループホールディングス会長兼CEO 角川歴彦氏と、現在「友情無限～孫文に一兆円を与えた男」

をタリフジに連載中の作家井沢元彦氏のお2人に対談形式で辛亥革命を支えた九州人を浮き彫りにしてもらいました。長崎出身で香港で孫文と運命的に出会い、物心両面から献身的な支援をおこなった梅屋庄吉の生き様は明治期の日本人像を如実に現し、香港協会会員を始め行政や経済界から出席された170名の方々は興味深く熱心に聴講されていました。

講演終了後のパーティーでは石原会長の主催者挨拶に続き、ご来賓を代表して麻生福岡県知事がご挨拶され、中華人民共和国駐福岡総領事館武樹民総領事の乾杯のご発声で華やかに開宴しました。また、来賓として日本香港協会名誉事務局長でもあられる古田茂美様による昨年1年間の日本と香港の交流事業が映像と共に紹介されました。歓談の途中、キャセイパシフィック航空とホテル日航福岡の賞品の提供でラッキードロワーが行われ、石原会長と佐々木副会長による抽選にて香港往復チケットとホテルのペアディナーチケットがそれぞれ贈呈されました。

宴たけなわ、佐々木副会長より謝辞と当協会への更なるご支援を要請し、春節の講演会とパーティーを閉じました。

## 「香港のつどい2011」を開催しました

今回で6回目となる「香港のつどい2011」を、2月7日(月)に、北海道日本香港協会、香港貿易発展局主催、香港政府観光局、北海道、札幌市、北洋銀行にご後援頂き、札幌グランドホテルにて盛大に開催されました。

冒頭に主催者を代表して当協会の吉野会長が挨拶。その後、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部ジェニー・チョック首席代表にご挨拶を頂き、香港政府観光局日本・韓国地区局長加納國雄様の乾杯により宴が始まりました。



スピーチされるジェニー・チョック首席代表

会場内では、香港政府観光局、キャセイパシフィック航空会社様によるディスプレイにより香港気分が一層盛り上がるなか、協賛企業として石屋製菓(株)様から皆様お馴染み「白い恋人」・「美冬」を、(株)きのとや様から「札幌農学校クッキー・プレミアム缶」等を、日本清酒(株)様から日本酒「吟風純米しぼりたて生うすにごり」を、北海道ワイン(株)様より道産ワイン「北海道ケルナー」など3銘柄、(株)ホリ様より夕張メロンを贅沢に使用した「夕張メロンピュアゼリー」をご提供いただき、参加された皆さんは香港の雰囲気と北海道の名産品を満喫されていました。



アトラクションとして、男性ボーカルカルテット「ダンディー・フォー」による素敵なハーモニーが披露され、豪華なステージになりました。



ダンディーフォーの素敵なハーモニー

最後に行われた、皆さん期待のラッキードロー大抽選会では、「札幌-香港往復ペアチケット」(キャセイパシフィック航空会社様ご提供)と「香港ハーバービューホテルペア宿泊券」(香港政府観光局様ご提供)がセットになった特賞や、石屋製菓(株)様、(株)きのとや様、全日本空輸(株)様、(株)ホリ様、日本清酒(株)様、北海道ワイン(株)様、香港貿易発展局様、北洋銀行様から、多数の賞品をご提供いただきました。特賞は、羨望の眼差しの中キャセイパシフィック航空会社日本支社営業本部長ジェームス・エバンズ様より当選者に授与されました。

香港のつどいは例年、札幌の冬の一大イベントであるさっぽろ雪まつりの開会日に合わせて、香港との文化交流や相互の観光促進を図るために行われてきた集いです。今年も多くの方々から支えられ、昨年を上回る137名の皆様にご参加頂き、大盛況のうちに終えることができました。改めて御礼申し上げます。

香港から北海道を訪れる観光客は年々増加し、昨年は年間10万人を超えました。香港と北海道のビジネス、文化の両面で交流がますます盛んになってきています。来年もさらに多くの皆さんに参加していただけるよう事務局でも取り組んでいきたいと思っております。



蔵王温泉開湯1900年

山形日本香港協会 会長 後藤誠一



春～秋限定オープンの大露天風呂（写真提供 山形県観光物産協会）

蔵王温泉は西暦110年に発見されたと伝承されており、1900年以上こんこんと湧き出ている歴史ある温泉です。

温泉街は標高880mに位置しており、春は遅く4月の中旬から新緑が美しくなっており、桜の花も平地より1ヶ月ほど遅く開花します。

夏は、平地より気温が5度くらい低くさわやかな風が吹きすさびやすい気候です。高山植物が咲きほころび、山歩きトレッキングに最適で多くの方にお越しいただいております。また、サマーナイトクルージングと称した星空観賞ツアーを行っております。

秋は、9月下旬から10月上旬の紅葉が素晴らしく、それを見ながら歩くトレッキングがお勧めです。

冬は、香港の皆さまに大変人気がある東北最大級の

蔵王温泉は強酸性の硫黄泉です

硫黄泉には、体内のムコ多糖タンパクを活性化させる働きがあり、体内水分量を増加させ、肌と血管を若返らせるとされております。血流促進効果は、心臓、便秘、糖尿などさまざまな効果が期待されますが、特に皮膚病に効き、美肌効果もあり「美肌の湯」として親しまれております。温泉が効く疾患及び病状は、きりきず・やけど・慢性皮膚病・虚弱児童・慢性婦人病・糖尿病・高血圧症・動脈硬化症・神経症・筋肉痛・関節痛・五十肩・運動麻痺・関節のこわばり・うちみ・くじき・慢性消化器病・痔疾・冷え性・病後回復期・疲労回復・健康増進です。

トレッキングやスキー・スノーボードで使用された筋肉を温泉が癒してくれることはもちろん日ごろの疲れまでも取り除いてくれるリラクゼーション効果ばっちりの温泉です。

また、温泉街には上湯・下湯・川原湯の三つの共同浴場（入浴料各200円）があり、気軽に温泉を楽しむことができます。それに加え、春から秋にかけては溪流沿いに大露天風呂がオープンしており蔵王温泉の名物となっております。

蔵王温泉観光協会

スノーエリア「蔵王温泉スキー場」があり、スキーやスノーボードでお楽しみいただけます。また、氷と雪がつくりだす自然の芸術品「樹氷」観賞も大変人気が高く、冬の蔵王温泉は特にお勧めです。「樹氷」は、東北地方の一部の山域にしか確認されず、海外でもはっきりした報告はありません。特に蔵王温泉の樹氷はロープウェイで気軽に見に行けるところが、お客さまから高い評価をいただいております。

ロープウェイは通年運行しており蔵王ロープウェイ地蔵山頂駅の蔵王地蔵尊、蔵王中央ロープウェイ鳥兜駅には大黒天、蔵王スカイケーブル中央高原駅からは蔵王大権現が祀られていて山の安全や繁栄を見守っております。金運にご利益があるともいわれておりますのでお参りされてはいかがでしょうか。

日本香港協会 全国連合会からのお知らせ

NEWS

チャイニーズ・マネージメント・アンド・マーケティング・スクール(CMMS) 第9期、開講決定!

昨年6月より開講してきた第8期チャイニーズ・マネージメント・アンド・マーケティング・スクール(CMMS)が5月12日に修了式を迎えます。二松学舎大学のご協力により、第8期より二松学舎大学の教室にて講義を開催して参りました。講義設備が整った環境の中で学習されてきた39名の受講生のうち、20名が修了する予定です(7割以上の出席)。

さて来期(第9期CMMS)の開講が決定いたしました。第9期は2011年9月～2012年6月の開講予定で内容を繰りこんでおります。また、多くのご要望に応え、第9期は「理論編」「実践編」に加え「語学編」のカリキュラムも開講する予定です。

本語学編では中国古典を対象に、原典解説と現代解釈・中国での需要等を中心とした講義を行う予定です。

CMMSの狙いは、ひとつに華人企業経営を理論・実践の両面からアプローチして解明し、中国経済社会の特質を理解して頂くこと、ふたつにはそれを通じて日本経営の独自優位を模索し、日本と華人経済の補完・共存の展望を切り開くべく希求して頂くこととあります。来期も多くの受講生のお申し込みを期待しております。

内容や詳細については全国連合会までお問い合わせ下さい。

日本香港協会全国連合会 CMMS事務局

TEL: 03-5210-5901 FAX: 03-5210-5860

Email: national@jhks.gr.jp

URL: <http://www.jhks.gr.jp/school/index.html>

謹んで地震災害のお見舞いを申し上げます

日本香港協会 全国連合会

## 「2011春節セミナー&amp;パーティー」を開催



みやぎ女将会会長磯田悠子氏による乾杯(春節)

2月22日(火)聘珍樓において開催、天気にも恵まれ、64名もの参加者を得て、盛大に開催することができました。

香港貿易発展局東京事務所長のサミュエル・チェン氏、次長の伊東正裕氏を来賓に迎え、佐々木会長の挨拶で幕を開け、センコン物流(株)の社長室次長の西條信彦氏による講演「マカオビジネスの可能性と県内企業の取り組み」と題して、マカオの発展とその魅力、ビジネスチャンスが大幅に広がったマカオで現在取り組んでいる貿易の内容など、ビジネスチャンス的一端をお話し頂きました。そしていよいよ春節パーティー。小野寺代表理事による挨拶、村井知事からのメッセージ紹介、サミュエル・チェン氏の挨拶の後、みやぎ女将会会長磯田悠子様のお話による乾杯があって、懇談となりました。聘珍樓の料理を堪能しながら、香港のお正月気分を満喫することができ、参加者もご満悦の様子でした。

広東語教室メンバーによるお正月の歌「恭喜恭喜」の合唱、沼田孝さんのフルート演奏があって、メインイベントはやはり「お楽しみ抽選会」です。今年は16社からの協賛により、各社とも工夫を凝らした景品で、当たるたびに歓声が沸くなど、とても盛り上がりました。

## 「香港の子どもたちとの交流歓迎会」を開催

11月22日(月)シェルブール(スマイルホテル3階)において、第31回地球の子ども通信国際交流事業「香港の小学生による仙台10日間ホームステイプログラム」で来日している子どもたちとの交流歓迎会を開催しました。

4~6年生の小学生17名の参加があり、言葉は通じなくても、本協会のメンバーと元気に懇談。アトラクションとして登場したのが宮城大学の学生で組織する「娘すずめ」によるすずめ踊り。軽快な笛と太鼓のもと元気に飛び跳ねる「すずめ踊り」に、会場の雰囲気は一変。写真をとったり、踊り出したりする



香港の子どもたちとの交流歓迎会

子どもいたほどでした。宮城と香港の距離が、またちよつと縮んだように思います。

## YOU・YOUクラブによる「芋煮会」、女性部会による「第2回料理教室」を開催



さあ、どんどん召しあがってね。

10月30日(土)名取川湖畔の茂庭荘の前庭で開催、今年は秋晴れとはいかずちょっと肌寒い中での開催でしたが、老若男女を問わず、赤ちゃんまで31名が参加、寒さを吹き飛ばして、あったかい芋煮、おいしい焼き肉、お酒と、和気藹々の懇談となりました。

また、2月8日(火)東北電力グリーンプラザ1階ッキングスタジオにおいて、17名の参加者を得て第2回目の料理教室を開催しました。メニューは、「鶏つくねと白菜の煮込み」「鮭の錦焼き」、「豆のおろし和え」そして「豆腐入り揚げ饅頭」です。参加者のみなさん、食べることに真剣です。先生の話聞き漏らすまいと、耳を傾ける人、メモをとる人、材料を見比べる人、様々ですが、おいしい料理を作ろうとする熱意は一緒、男性の生徒さんも混じって熱心に挑戦していました。参加者のみなさんにとっても満足して頂きました。



料理教室で挨拶する池田女性部会長

## 沖縄を再びアジアの架け橋へ 沖縄国際航空物流一周年 in 香港

広島日本香港協会 事務局

去る2010年12月1日・2日に開催された「香港フォーラム2010」に、広島協会からも事務局を含め11名が参加した。メンバーの中には、20年ぶり、12年ぶりに香港を訪れた方がおり、それぞれの時を経て、香港の変化や現状についての思いを記してもらった。



ホテルの部屋よりグロースターロードを臨む スターフェリーからのHKCEC

### 20年前の香港と比較して — 香港の運転マナーと都市の姿

今回の香港訪問の第一印象は、驚嘆するほどに変化を遂げた都市の姿である。巨大なチェックラップコク国際空港の威容に始まり、世界的な物流基地として整備された港湾とそこに林立するガントリークレーン、利便性の高い電車や高速道路といった交通網など、目に映る構築物・施設などの充実は、挙げればきりがないほどである。

しかし、こうしたいわばハード面の発展にも増して感心させられたことがあった。香港の街に入ると、広い自動車道を横断し人と車が混在する狭い道を歩いた。渋滞の中で車は忍耐強く歩行者を見守るといった様子で、クラクションの音もなく、一度も危険を感じることはなかった。幾度か乗ったタクシーにしても、ドライバーの運転は安全そのものだった。要するに、車のマナーがいいと思ったのである。私がこのようなことを実感したのは、理由がある。

20年前、猛スピードで往来する車のため道路を横断するのに難儀したことや、香港は車優先社会だから歩行者はそのつもりで注意すべきという、今となっては真偽の定かでない話を旅行社の人から聞かされたことを思い出していたのだ。同じ時期、中国本土の或る都市で、たまたま乗り合わせた車がクラクションを引切りなしに鳴らした挙句、無謀な運転のため人身事故を起こしたことも忘れられない。

今の香港のドライバーは、私の知る限り、よくルールを守りマナーのある運転をしているようだ。良くも悪くも、人々の足であり商品の輸送手段である自動車の存在は、今日の経済・社会で大きなウエイトを占めている。そのため、運転に対する人々の姿勢は単なるマナーの範疇を越えて、地域社会の文化的レベルを示すことにもなっている。

この度の訪問で強い印象を覆った都市の姿は、ここに住む人々の運転マナーからも えるようなルール遵守の精神と、多人種の中で育まれた寛容なメンタリティーによってもたらされた世界ビジネスの成功が、現在の形をとって顕われたものだとして理解した。(事務局 寺田)

### 12年前の香港の印象

12年前の1999年2月、香港が中国に返還されて2年が経とうとする春節直前、開港して半年のチェックラップコク国際空港に降り立った。今では貨物取扱量で世界第2位と言われているこの空港には、アジアというよりヨーロッパ的イメージを抱いた。

春節前でバーゲンの時期だったこともあり、夜中近くまで営業していた香港そごうのブランド店内はどこも満員、もちろん入場者数の制限が行われていた。タイムズスクエア吹き抜けの3階から1階に下るエスカレーターに乗ると、途切れることのない群衆の黒い頭が眼下にあった。商魂たくましく、購買意欲の高い香港人。日本の一地方都市ではありえない状況に、香港の勢いを感じた。

また、もう一つ驚いたのは、フィリピン人メイドの集団だ。スターフェリー降り場からビクトリアピークに向かう途中の歩道橋に段ボールを敷いて陣取り、歌を歌ったり髪を切りあったりしている様子にははじめ戸惑ったが、春節の休暇を思い思いに楽しんでいるのを眺めているうち、香港だけでなくフィリピン文化も見たような気がして、こちらまで楽しくなった。10万人以上いると言われていたフィリピン人メイドだが、今は減少傾向で、インドネシア人メイドが増えていると聞く。今回は目にする機会はなかったが、インドネシア人のメイドたちが楽しむ様子も見たいと思う。(事務局 谷本)

### 現在の印象

20年前、12年前の香港の回想に続き、最近の香港を知る当協会会員、Shiota Trade Consulting Office代表の塩田靖浩氏に話を聞いてみた。今回のフォーラムと同時期にAgri&Foods Export Frontier、Hiroshima協議会(事務局-ひろしま産業振興機構)が開催した香港食品商談会に、アドバイザーとして参加された塩田氏は、3年前に初めて仕事で香港を訪れて以降、3、4回訪問している。これまで一番大きく変わった点は、本土からの中国人を多く見かけるようになったといわれる。香港に住む人とはやはり少し雰囲気が違うため、本土からの人はすぐわかるらしい。また、その影響からか、人民元の両替所を多く見かけるようになったとのことだった。

徐々に訪れた者にとって香港は、英国から返還された以降も幅広く受け入れてきた東西文化の果実がよく実り、経済だけでなく、地域としての文化が熟成しつつある印象を受けるようだ。しかし今後は、中国本土からのハード・ソフトの流入がますます増大し、その影響を受けることを思えば、今までは少し形を変えてはいくものの、香港の人々から湧き出るエネルギーはさらに増してくるのではないと思われる。来年、フォーラムで再訪するのが楽しみだ。

## 香港再訪で思う過去と現在

沖縄日本香港協会 事務局

## 新会長就任

大田哲哉前会長の広島県商工会議所連合会会頭辞任に伴い、平成23年4月18日付で新たに深山英樹氏が会長に就任されました。新体制の下、香港を通じてのビジネス交流を一層深めていけるような協会にしたいと思っております。



(深山会長 略歴)

1964年広島ガス(株)入社。

総合企画部、総務人事部等を経て2002年に代表取締役社長に就任。2010年4月、代表取締役会長就任。2010年12月より広島商工会議所会頭、広島商工会議所連合会会頭、現在に至る。



い状況を強いられている中、相対的に被害の少ない広島県の会員企業が率先して行動を起こしていくことで、国内外のビジネスをより活発にしていけるよう取り組んでいく所存です。

総会の後、香港貿易発展局大阪事務所ベンジャミン・ヤウ所長に、「香港人から見た日本と香港の今後の関係について」と題して講演を行っていただきました。東日本大震災が起こって1ヶ月半、香港政府や民間団体からの手厚い支援・エールをもらう反面、放射能による不安が報道され、香港政府による日本への渡航禁止勧告や、風評被害も甚大なものであるのは皆様周知の如くです。幸い、多数の香港市民が日本を支持し、4月中旬には日本への観光ツアーが再開されるなど、マイナス要素ばかりではないことを強調されました。また、全国人民代表大会で採択された第12次五カ年計画に、香港・マカオに関して初めて独立した章が設けられたことで、香港の今後の位置づけが確定したことについて触れられ、「Quality」の日本と「Market」の中国の間立つ、「Marketing」香港の今後の役割が重要になっていくことを話されました。会員にとっては、まさに最新情報が入手出来た非常に有意義な講演でした。

講演の後の懇親会は、会長の挨拶に始まり、奥原副会長の音頭で乾杯、なごやかな雰囲気の中、会員皆さんが会話に花を咲かせていました。

今年度も、会員皆さんの意見を反映できる協会にしていきたいと思っております。皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。

## 平成23年度通常総会開催



去る4月25日(月)に、オリエンタルホテル広島にて平成23年度通常総会・懇親会を開催しました。会員41名が参加し、深山英樹新会長の司会により議事が進められました。平成22年度事業報告・決算報告、平成23年度事業計画・予算案は無事承認され、新たな年度に向けて事業を行っていくこととなりました。本年度は、香港貿易発展局と連携し、県内企業の海外ビジネス展開の支援を通年行っていくことに加え、メイン事業の一つとして、香港企業を招聘しての商談会を実施する予定です。特に会員企業内から要望の多かった①環境関連②食品関連③観光関連の3分野に焦点を絞り、それぞれのニーズに合った企業を招聘し、会員企業の今後の海外販路拡大の支援をしていきます。

3月の震災の影響を受け、経済・産業面において厳し



Corporate Travel Solutions

# 「コーポレート・トラベル・ソリューション」なら オンラインでご出張の 予約・発券手配が可能です



## コーポレート・トラベル・ソリューションとは？

キャセイパシフィック航空の「コーポレート・トラベル・ソリューション」(略称:COTS)とは、香港および台北への業務渡航やご旅行に、キャセイパシフィック航空・香港ドラゴン航空をご利用いただく企業様向けのプログラムです。専用サイトを通じ

て、企業の皆様の航空券をオンラインで予約・発券することができ、ご利用実績に応じて、個人・企業単位でそれぞれマイルを貯められるのも大きな魅力。なお、ご登録費用は無料、ウェブサイト上で簡単に手続きが可能です。

**COTSプログラム**    [トップページ www.cathaypacific.co.jp](http://www.cathaypacific.co.jp)    ▶ **おすすめ情報**    ▶ **コーポレート・トラベル・ソリューション**

ご利用条件:年間3名以上の従業員の方がキャセイパシフィック航空または香港ドラゴン航空を利用すること。次年度継続には、年間50万円以上のご利用が必要となります。

## 特典

- 1 ご旅行の予約・発券がいつでもオンラインで可能。
- 2 日本から最多の便数を誇る香港、及び台北路線のビジネスクラス、エコノミークラスの正規割引料金をご提供。
- 3 ザ・マルコポーロクラブ(グリーンティア)へのご入会が無料。
- 4 個人で「アジア・マイル」を獲得、さらに企業単位でも「コーポレート・アジア・マイル」を獲得可能。



## 特別プロモーションのお知らせ

2011年6月30日まで、コーポレート・アジア・マイルが2倍になるプロモーションを実施中です。通常、出張者が2マイル飛行した場合に1コーポレートマイルの獲得となるところ、今なら2コーポレートマイルを獲得可能。この機会にぜひご登録ください。

### 「アジア・マイル」とは？

「アジア・マイル」は、キャセイパシフィック航空のマイレージプログラム。フライトやレストラン、ホテルのご利用などでマイルをため、様々な特典と交換することができます。COTSプログラムでは、ご利用者個人でアジア・マイルが獲得できるうえに、ご利用者が属している企業でも「コーポレート・アジア・マイル」が獲得できます。



「コーポレート・アジア・マイル」は企業の皆様で共有でき、ラウンジ利用など様々な特典に交換することが可能です。

### 「ザ・マルコポーロクラブ」に加入すると？

専用カウンターでのチェックイン、優先搭乗、24時間営業のザ・クラブサービスセンターのご利用など、様々な特典があります。ご入会時はグリーンティアとなり、ご利用に応じて会員ステータスが上がります。またシルバー会員以上では空港ラウンジもご利用いただけます。



[www.cathaypacific.co.jp](http://www.cathaypacific.co.jp)